



## 幹部候補生採用予定者が東部方面総監部等を研修

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、2月12日（日）と13日（月）、陸上自衛隊東部方面総監部が実施した研修へ一般幹部候補生採用予定者を引率した。

この研修は、採用予定者同士で同期の絆を深めるとともに、自衛隊での将来像を見出しってもらうことが目的で行われた。

1日目は、和光市民文化センター（埼玉県）で行われた「陸上自衛隊東部方面音楽まつり」を鑑賞し、その後一般幹部候補生出身の幹部隊員を交えた懇親会が行われた。

2日目は、陸上自衛隊朝霞駐屯地（東京都練馬区）で東部方面総監部の業務状況や同駐屯地で勤務する部隊、生活する官舎等を見学した。また、森山東部方面総監による講話も聴講し、「個々の力には限界がある。しかし集団の力ならば乗り越えられる」と激励の言葉を受けた。

参加者からは「実際に勤務している幹部自衛官との交流で、様々なことを教えてもらい、入校への不安が解消出来た」「多岐にわたる自衛隊の活動を理解することができ、新たな目標が出来た」といった感想が聞かれた。

静岡地本は、今後もこのような機会を活用し、採用予定者に自信と安心を付与し、入校を迎える態勢作りに取り組んでいく。



## 県内出身艇長が寄港掃海艇「いずしま」特別公開

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、2月12日（日）、海上自衛隊掃海艇「いずしま」の清水港入港に伴って特別公開を実施した。同艇の艇長は静岡市清水区出身の菊地甚太3等海佐であり、入港当日は多くの地元市民による歓迎を受けた。

今回行われた特別公開は、県内在住の将来自衛官を目指す学生や教諭等を対象としており、19名が参加した。

最初に水中の機雷や不発弾を処理する水中処分員（EOD）の隊員から、機雷処分任務で使用しているスクーパ装置等の説明を受け、その後、艇上から実際にEODクルーが手際良く機雷を処理する訓練展示を見学した。

また、後部作業甲板では機雷処分具といった掃海艇ならではの装備品を見学し、機雷処理方法の説明を受けた。

最後に艇長は「自衛隊は日本国民の安全を守り、国民から常に期待を受けているやり甲斐のある仕事。また、日本を含めたグローバルな視点で物事を考える力が養われ、自分を成長させることが出来る」と魅力を伝えるとともに、「君たちと仕事が出来ることが期待してその日を待っている」と参加者に言葉を送った。

静岡地本は、今後もこのような機会を積極的に活用し、自衛隊の魅力をもっと多くの若者に知ってもらうとともに、自衛官を目指す志望者の支援に努めていく。



## 入隊予定者が掃海艇「いずしま」を研修

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、2月12日（日）、清水港（静岡市）に入港した掃海艇「いずしま」の入隊予定者等に対する研修を実施した。

これは、函館基地所属の掃海艇「いずしま」の入港に伴い行われ、入隊予定者等を対象に、海上自衛隊での勤務や掃海艇に関する説明、艇内見学等を実施した。

参加者は、海上自衛隊の艦艇というイメージが強いが、掃海艇の水中の機雷を排除する任務や珍しい木造の船体等に乗艇前から興味を持っている様子であった。

艇内では、乗員の案内で艦橋や掃海機器等の装備品、海中の機雷や不発弾を処理する「水中処分員」の訓練展示等を見学するとともに、静岡市清水区出身の「いずしま」艇長・菊地甚太3等海佐から、海上自衛隊で勤務する魅力等について説明を受けた。

参加した海上自衛隊入隊予定者は「実際に艦艇で勤務している海上自衛官から経験に基づく様々な話を聞くことが出来て良かった。海上自衛隊の仕事に肌で感じ、今後の職域を決める参考になった」と話していた。

静岡地本は、今後も自衛隊と地域の連携を大切にしながら、若者が自衛隊と接することの出来る機会を積極的に設け、意欲ある志望者の獲得に邁進していく。

